末弘嚴太郎（すえひろいずたろう）民法・労働法学者、法学博士。明治二十一年十一月二十日山口縣生れ、昭和二十六年九月十一日歿（一八八一～一九五一）。第一高等学校を経て、明治四十五年東京帝國大学法科大学卒。欧米留学後、大正十年同大教授。十三年東大セツルメントを組織。戦時中日本法理研究會會長を以て戦後教職追放処分を受く。労働二法の立案に参劃、中央労働委員會初代會長。また労働法学の創始者と目される。

著書に『農村法律問題』（大正十二年十一月二十二日改造社）、『民法講話』全二冊（上巻・大正十五年六月十五日、下巻・昭和二年九月十八日岩波書店）、『漢字からローマ字へ!!』（不破祐俊・兒山敬一合著、昭和五年一月一日日本ローマ字會「日本ローマ字會パンフレット」）、『法窓雑話』（昭和五年十月五日日本評論社）、『民法雑考』（昭和七年二月二十日日本評論社）、『法律学辞典』全五巻（田中耕太郎共編、昭和九年十二月五日～十二年二月八日岩波書店）、『民法雑記帳』（昭和十五年四月二十五日日本評論社）、『續民法雑記帳』（昭和二十四年八月二十日日本評論社）、『日本労働組合運動史』（昭和二十五年六月二十日日本労働組合運動史刊行會）、『法学入門』（昭和二十七年九月二十日日本評論新社「末弘著作集」）等。